

交通安全協会だより（令和2年12月号）

年末年始の交通安全運動が始まります

～ 令和2年12月10日から令和3年1月10日まで ～

毎年、この時期は、薄暮時間帯から夜間にかけて交通事故が多発し、特に高齢歩行者が被害となる重大事故も発生しています。

県民一人一人が交通安全意識を高め、交通ルールの遵守、正しい交通マナーの実践を習慣付けることにより、県民総ぐるみで交通事故の防止を図ることを目的として実施します。

運動の重点

○夕暮れ時と夜間の交通事故防止

歩行者は、明るい服装、夜間の反射材等を使用して自分の存在をアピールしましょう。自動車や自転車を運転する皆さんは、薄暮時間帯における前照灯の早めの点灯により、自分の存在を周囲に知らせる、早く危険を発見して交通事故の防止に努めましょう。

○妨害運転等の危険な運転の根絶

妨害運転（あおり運転）や飲酒運転は、重大事故の原因となり被害者の人生を奪う悪質な犯罪です。

妨害運転（あおり運転）は、イライラや傲慢な心理等から生まれる非常に悪質な危険運転です。こうした危険な心理をコントロールして安全運転を心がけましょう。

ドライバーが「飲んだら乗らない」を厳守するのは当然ですが、周りの人も、車を運転する予定がある人には酒をすすめたり、酒を飲んだ人に車を運転させてはなりません。

○歩行者の安全と自転車の安全利用の確保

車と横断歩道を渡っている人との事故が後を絶ちません。横断歩道は歩行者が絶対的に優先される場所です。横断しようとする歩行者がいれば、一時停止をして横断歩行者の安全確保に努めましょう。

○高齢運転者等の交通事故防止

高齢者が道路を横断中に車と衝突する事故が多発しています。高齢者特有の行動特性を理解し、高齢者がどのような行動をとるかを予測し、心にゆとりを持って「見守り・保護する」運転に心がけましょう。

～ 横断歩道の歩行者に配慮しましょう ～

依然として道路交通法を無視し、信号のない横断歩道で停止しない車が多く、歩行者事故の原因の一つとなっていることをご存じですか？

JAF（一社 日本自動車連盟）は、毎年、「信号のない横断歩道」における歩行者優先の実態調査を実施しています。

このたび、令和2年8月に調査した結果を公表しましたが、横断歩道での一時停止率は全国平均が21.3%と、前年の17.1%と比較して4.2%増加していますが、「約8割近くの手前が一時停止しない」というのは大きな問題です。

一時停止率は各都道府県によって差があり、一時停止した車の最も高かったのが長野県の72.4%、徳島県は11.8%という結果となっています。

☆☆ 横断歩道では手前で減速 歩行者優先 ☆☆

道路交通法では、車両等は横断する歩行者等がいけないことが明らかな場合を除き、横断歩道の手前で停止できるような速度に落として進まなければなりません。

さらに、横断歩道を横断しようとする歩行者等があるときは、横断歩道の直前で一時停止し、その通行を妨げてはならないとし、「横断歩道における歩行者等の優先」を定めています。